

みんなで考える高砂市の新たな学校づくり～高砂市の学校の現状とアンケート調査報告会～まとめ

2025年2月

■ 2/15 教育センター 18名参加

- ・できることをもっと取り入れたらどうか。
(例えば、近隣市町の取り組みとか)
- ・学校に人を増やす考えはないのか。
- ・教育で高砂市のウリが作れるのではないのか。
- ・子どもと大人がもっと関われる場があると良い。
→地域の力をもっと頼れるような環境の整備
- ・教育とまちづくりは繋がるのではないのか。
- ・小中学校で基準が違うが、そのまま適用して良いのか。
→高砂市の基準を作ってはどうか。
- ・療育などの情報が少なく、保護者まで届いていない。
- ・先生の役割分担はできないか。

【参加者から出た質問】

- Q.補助員は中学校に配置されないのか。
A.配置している。
- Q.20年先ではなく、できるところからやるべきではないか。
A.この計画は20年後にどうするかではなく、20年間どうするかを示す。



■ 2/18 曽根地域交流センター 6名参加

- ・こういう場にもっと人が来て欲しい。
- ・こどもが減りすぎてビックリしている。
- ・小6→中1で不安を感じる子どもと親が増えた。
- ・学校と地域が繋がれるところと無理なところがある。
(市民の力があるところ、ないところ)

【参加者から出た質問】

- Q.無関心な親が多すぎるので、親が学ぶ機会も必要ではないか。
A.もっと地域を巻き込むやり方を検討する。
- Q.どの学校に子どもが通っているかで保護者のアンケート調査の回答に違いはあるのか。
A.学校別のクロス分析があるので、丁寧に分析する。
- Q.現地建替えか、移転建替えか。
A.住宅地と市街化調整区域に差があるが、住宅地内に学校用地を確保するのは難しい。難しくてもやるか、現地建替えで考えるかは検討していく。
- Q.以前から分散進学はあったが、マイナスなのか。交友関係が広がっていいのではないか。
A.分散進学は小6の児童や保護者が不安を感じるし、受け入れる側も不安を感じると聞いている。
- Q.行政や学校だけでは対応できないことも増えてきているので、地域や市民の力が子どもを教育する上で必要だと思う。地域として関われることもあるが、教育委員会として、教育の場に地域や市民が関わるのはどう思っているのか。
A.連携をとりながら地域や市民の方々に助けたい場面はたくさんある。学校側も発信できるようになるといいと思う。



■ 2/20 中筋地域交流センター 4名参加

- ・少人数学級は競争が少なくなるが、新しいチャレンジはしやすいそう。
- ・学年ではなく、レベルに応じた学びができないか。
(例えば、モデル校を導入して検討)
- ・不登校の原因をもっと知る必要がある。
- ・意見交換の場をもっと増やして欲しい。

【参加者から出た質問】

- Q.施設一体型小中一貫校はあり得るのか。
A.具体的に行っていないが、検討は必要。
- Q.1クラスの人数はどれくらいが最適か。
A.文部科学省は小学校35人、中学校40人を基準としている。
- Q.この計画はどのようなスケジュールか。
A.10年、20年後の将来を見据えた今後の学校のあり方を検討している。
- Q.社会や地域における学校の役割の見直しが必要ではないか。
A.学校と地域の関係、学校と地域の人の関わり方は検討していく。
- Q.暑さが厳しくて、通学に配慮が必要ではないか。
A.通学方法については、今後検討していく。

“学校”の在り方について、色々な意見があるね。



■ 2/22 高砂地域交流センター 12名参加

- ・答えの誘導はせずに、色々な意見を聞いて欲しい。
- ・アンケート調査の取り方に疑問を感じた。
- ・全員の顔と名前がわかるので、2クラスでも良かった。
- ・小規模校は本当にダメなのか。
- ・少人数教育をするのもいいのではないか。
- ・小学校に中学部、中学校に小学部の設置や4・3・2制の検討など、前提から考えて欲しい。
- ・学校ごとの特色(地域性)を伸ばしてはどうか。
- ・規模や学校の数だけではなく、学校のあり方を考えるのも大事。
- ・地域に助けてもらったり、みんなで支える学校をつくってはどうか。
- ・もっと子どもたちが遊べる場所が欲しい。
- ・良い食材を食べて体力をつけて欲しい。
- ・環境の変化への対応を考えて欲しい。
- ・高砂方式と言われるような新しい学校のあり方にチャレンジしてはどうか。
- ・財政効率だけではなく、教育面や子どもを第一に考えて欲しい。
- ・国の示す適正規模は教育的観点ではなく、財政的な観点ではないか。世界的に小規模校が多い。
- ・教育予算が最低基準なのも問題ではないか。

【参加者から出た質問】

- Q.統廃合は国の基準か、アンケート調査結果か。また、国の基準は絶対に守らないといけないのか。
- A.国が公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引で、適正規模適正配置の標準を示している。今回のアンケート調査結果を参考にしながら、審議会で高砂市の方向性を出していく。
- Q.通学路の距離や安全性の観点から、通学区域に関係なく、どここの学校でも選択できるような制度はあるのか。
- A.意見としては尊重したいが、通学区域を設けずに自由に学校を選択できるようにするには様々な検討すべき課題がある。

■ 2/25 北浜地域交流センター 7名参加

- ・大人になると学校に行くことがなくなる。
- ・こどもたちの意見を聞くのも大事。
- ・思っていたよりこどもの数が減るんだと思った。
- ・こどもたちが地域に魅力がないと言っている。

【参加者から出た質問】

- Q.特別支援学級が増えている理由はなにか。
- A.保護者の意向が尊重されるため、地元の学校で支援学級を希望する人が増えたことと、判定検査を希望する保護者が以前より増加したことが考えられる。
- Q.学区を越えた越境通学を認めている学校はあるのか。
- A.隣接して小中一貫教育を行っている高砂小中学校への希望者は認めている。また、中学校は、指定する学校に希望する部活動がない場合、その部活動のある学校へ通学できる。
- Q.中学校部活動の地域移行はあるのか。
- A.現在、検討中である。令和7年度中にはその方向性を報告したいと考えている。
- Q.旧北浜幼稚園舎はどうなるのか。
- A.老朽化しており、学校施設の再編と併せて今後の方向性を検討していく。
- Q.20年後の児童生徒数の推計では、全学校で減少しているのではなく増加している学校もある。
- A.40年間での全体傾向は減少している。



■ 2/27 市役所南庁舎 25名参加

- ・80年代から特別支援教育を実施しているのはすごい！
- ・高砂はムラ意識が強い。(地域コミュニティの形成)
- ・体育館の空調設置が進んでいるが、特別教室にも設置して欲しい。
- ・親の関心が低い。
- ・周知が足りていない。
- ・支援学級が増えている。
- ・近隣市でも同様の課題があるなら連携してもいいかも。
- ・通学中の事故や犯罪が心配。
- ・通学区域の変更のイメージが沸きにくい。
- ・将来、学校教育に使える財源の予想はしているのか。学校に求められるものが多いのではないか。

【参加者から出た質問】

- Q.再編する上で、通学距離や通学区域の変更、学級数の増減は試算しているのか。
- A.これから検討していく。
- Q.教職員の負担軽減として、部活動の地域移行は考えているのか。
- A.現在、検討中である。令和7年度中にはその方向性を報告したいと考えている。
- Q.洋式トイレの設置状況はどのくらいか。
- A.全てのトイレが洋式化されているわけではなく、特別教室のみの校舎や一部の体育館で和式が残っている。
- Q.統廃合により支援学級が増え、本来、支援が必要な子どもが取りこぼされることが懸念される。支援学級の支援体制は十分か。
- A.支援学級は非常に増加しており、スクールアシスタントや介助員等の補助体制を増員しているが、まだまだ不十分なので調整を行っている。

高砂市の学校の現状と
アンケート調査報告会



※参加申込時にいただいた
ご質問への回答や説明内容
を掲載しています。
詳しくは、市ホームページを
ご覧ください。